



泌尿器科医師&看護師 必携! 患者説明・指導、トラブル回避のポイントがすぐにつかめる!

2019年6月25日発行 (或数月25日発行) 第24巻3号 (通巻269号) ISSN 2189-8545

泌尿器 Care & Cure

Uro-LO

2019

3

Vol.24

みえる・わかる・ふかくなる

治療と看護
みんなつながるマガジン
ウロロ

まるごと

謹呈

MCメディア出版

泌尿器科患者の
疑問に答える
Q & A

検査・診断・手術・合併症・副作用

MCメディア出版

ウロロジカルな 世界の歩き方 21

小内友紀子

こうちゆきこ
ときわ会常磐病院
泌尿器科



“オバタリアン医療者”は世界を救う!?

医療者にとって 歳をとることはメリットにも

20歳のころは、40歳の自分なんて想像できませんでした。皆さまはいかがでしたでしょうか。もちろん、私は40歳をとうに過ぎておりまして、そろそろ50歳に手が届こうかというところです。いまや立派な“オバタリアン泌尿器科医”として、福島県いわき市の病院で働いております。

歳をとることは、デメリットと考える人も多いでしょう。特にタレントさんやモデルさんなどは痩せていて、きれいで、若い人がもてはやされる傾向にありますね。

しかし、医療者としては、歳をとることはメリットではないかとさえ思ってしまう。特に泌尿器科領域においては。大学を卒業して医師になりたてのころは、いろいろ恥ずかしかったです。当時、残尿測定はいまのように便利な測定器などなかったので、ネラトンカテーテルを入れて実際の残尿量を測っていました。若い男性の残尿測定をやるようにいわれたとき、どうやっていいのかと、どきどきしたことを覚えています。

患者さんに外来で手術の話をするときも、「手術、

先生がやるんですか?」と聞かれ、「大丈夫です、上の先生と一緒にやりますから!」と必死で答えたことも思い出されます。現在は、「先生がやってくれるんですよ?」と逆の意味で聞かれるようになってきました。

ちょっと自慢ばいですが(ハハ)、「あら、若い先生ね」と初老の女性患者さんに言われ、「ありがとうございます、全然若くないですよ〜」と笑って返せるようになってきました。

経験値が上がると引き出しが増える フルマラソン完走もできる

歳とともに、経験値も上がっていきます。いままで経験した患者さんの数だけ、悪性腫瘍がらみや排尿障害がらみの引き出しは増えていきます。

対応できる年齢層も幅広くなりますね。以前は年上ばかりだった患者さんが、同年代や年下も増えていきます。

体力についても、昔は歳をとれば体力が落ちるかと思っていましたが、昨年はフルマラソンを完走することができて、そうでもないと思い直しました。周りをみると、自分より年上の人でサブスリー(2時間台)を出された先生(男性)などもおられ、こ

れは鍛えればまだまだ体力の上がる余地があるなと思っております。

目はどうにもなりませんね。コンタクトにすると遠くは見えても近くがだめなので、メガネにしています。近くを見る細かな手術のときは、お尻で踏んでも壊れない「ハズキルーベ®」に頼っております。1万円ちょっとでこれだけよく見えればすばらしいコストパフォーマンスと喜んでます。

若い人の力も必要だけど オバタリアン・ライフをエンジョイしよう!

『女性脳の特性と行動』(ローアン・ブリゼンティーン著)によると、熟年女性の脳ではいろいろな変化が起きているようです。エストロゲンとプロゲステロンの大きな変化はなくなり、“世話焼きホルモン”であるオキシトシンもそれほど出なくなり、子どもたちへの身体的な世話から遠ざかっても平気になってくるそうです。このころに何か大きな決断をしようと思う人は、ホルモンの変化が心に影響を及ぼしている可能性があるとのこと。「いま感じている衝動は本物か、ホルモンによって引き起こされただけではないかと、よくよく見直すことが大切」だそうです。ご注意ください。

と、このように歳をとってオバタリアンになることは、女性医療者にとってメリットだらけなわけですが、周りからの信頼度は上がり、経験値も上がり、体力も増えていくと。

ただ、気を付けたほうがいいこともあります。

引用・参考文献

1) ローアン・ブリゼンティーン. 女性脳の特性と行動: 深層心理のメカニズム. 東京, パンローリング, 2017, 278p



写真 当院の「ちょんまげ院長」と当時の研修医と一緒に

アップルジャパンの元社長さんで、尊敬する山元賢治さんが講演でおっしゃっていたことですが、自分自身も自戒を込めていつも忘れないようにしようと思っています。

「女性はすばらしい能力をもっています、ただ陰口やうわさ話はやめたほうがいい」

誰かとその場にいない人の話をするときは、よほど気を付けないといけませんね。

大学病院を離れ、いわきで働き始めて約2年になります。いわきの医師不足は深刻で、同様に看護師さんも技師さんも足りません。若い人の力も必要ですが、“オバタリアン医療者”だからこそできる仕事がたくさんあると日々実感しています(写真)。

それでは皆さま、本日はこの辺で。これからますますすばらしい、オバタリアン・ライフをエンジョイしようではありませんか!